

【地理B】 大学入学共通テスト試行調査(プレテスト)所見(平成 29 年 11 月実施)

教材研究センター地歴公民研究室

◎ 試験概要 ◎

配点：100点

試験時間：60分

◎ 出題における特徴的な点 ◎

- 2017年度センター試験本試と比較して、大問数は6問から5問、小問数は35問から30問に減少した。
- 2017年度センター試験本試よりも資料や文章量が増えページ数は実質7ページ増加した。
- 現行のセンター試験ではしばらく見られなかった8択問題、9択問題が出現した。
- 「すべて選べ」という、複数解答が可能な問題が初めて出題された。
- 地形図に国土地理院のホームページにある「地理院地図」が用いられた。
- 先生と生徒の会話、高校生のグループ学習、仮説の検証など、主体的な学びを意識した設問が見られる。
- 難易度は2017年度センター試験本試と同程度だが、小問数の減少に伴い1問当たりの配点が上がることに注意したい。

◎ 大問ごとの分析 ◎

第1問(熱帯の気候と日本の自然災害)

Aは熱帯の気候の問題であるが、実際には熱帯以外の気候の知識も必要になる。先生と生徒の会話文が用いられているが問題自体は従来の形式を踏襲している。問1は貿易風の風向という基礎知識で解けるが、正答率は高くなかった。問2は②のエルニーニョ現象は熱帯収束帯とは関係がない。問3は図1に示された河川の流域や熱帯収束帯の位置を参考に、ナイル川を特定する。問4は写真の植生に対応する地点を選ぶ問題だが、図1の熱帯収束帯の位置をよく見ないとアとウを間違える可能性がある。Bは日本の自然災害の問題。8択問題や地理院地図が利用されている点が新しい。問5は火山に関する説明文中の下線部の正誤8択問題。慎重に判定すれば難はない。問6は地形図をよく読んで災害範囲をイメージできれば解答できる。

第2問(世界の食料問題)

テーマを決め、それを探求する授業という設定の、新しい教育課程を意識した大問である。世界の食料問題がテーマで、カード、ポスターを用いて、そこから問2～問6を出題している。問1は大学入試センターが公表している「問題のねらい」で「問題文中の図に誤りがあったため、集計の対象外とする」とあり参考問題となっているが、図表と選択肢を見れば解答は可能である。問2は穀物に関する基本的な統計の知識で解答できる。問3は国土面積に占める農地の割合が最大である①がアジアであるが、耕地1ha当たりの肥料の消費量という見慣れない統計データで判定するのは難しい。問4は会話文を精読しなくても穀物の生産、貿易に関する基本的な知識で解ける。問5はとりすぎ人口の割合の扱いに戸惑うかもしれないが、他の指標や表4中の考察した結果と合わせ、各国の経済状況も考慮して解答する。問6はクラスでの学習のまとめという形式で世界の食料問題について問われているが、常識的知識で即答できる。

第3問(世界の人口と都市)

世界の人口と都市に関する大問で、ほぼ従来通りの形式である。問1は人口と人口密度に関するカルトグラムの読み取り問題で、とりたてて難しくはない。問2は人口ピラミッドの読み取りである。各国の年齢別人口の特徴を把握しておき、慎重に判断する必要がある、やや難しい。問3は表中のデータを見落とさずに慎重に検討すれば解ける。問4は写真中の都市に関する説明文の正誤8択問題。説明文中に都市名が明記されているが、下線部をよく読まないと失点しがちである。問5は港湾や鉄道を手掛かりに、倉庫群や住宅がどこに立地するかをイメージする。スは「鉄道に沿って」という表現に注目したい。問6はX～Zの文中に示された特徴が表2の指標にどのように現れるかを考えればよいが、正答率は低かった。なお、Xは群馬県前橋市、Yは東京都豊島区、Zは大阪府高槻市である。

第4問(ヨーロッパ)

主体的な学習を念頭に置き、高校生の課題研究という形式で出題されたヨーロッパ地誌の大問である。問1は西岸海洋性気候に該当するのはダブリンだけであるため解答は容易である。問2は写真中で行われている農業と対応する地点の組合せの選択問題。写真から農業様式を判断するのは少し難しいかもしれないが、資料集などで確認しておきたい。問3はヨーロッパ諸国の言語、宗教が整理できていれば即答できるが、ポーランド、ブルガリアまで手が回らなかったのか、正答率は低かった。問4は先生の示したメモからEUの統合が進んだ理由を考えるという問題。メモそのものは解答に大きな影響を与えず、基本的な知識で解答可能であるため、選択肢をよく読んで解答を導きたい。問5はドイツとルクセンブルクを参照しつつ、図4中の国家群の経済や人口を推測し、解答を導く。問6はEU加盟国間、およびEU域内外での人口移動の理由に関する仮説とその立証に必要なデータを選択するという新しい形式の問題。9択から選択することや、仮説の立証に関係ないデータもあることから、解答に時間を要すると思われる。

第5問(静岡県中部の地域調査)

地域調査の大問は現行のセンター試験にも出題されているが、地理院地図を利用していることや複数回答可能な小問がある点が新しい。問1は地形図を読み取り、車窓からの景観を判断する問題。図をよく見て誤文を除外し、正文を選択したい。河川の実際の水の流れは降雨などの影響を受けるため①が正文であるが、それを地形図から見出すのは困難で、正答率は全小問の中で最も低かった。問2は問題文中の避寒地という表現に注目し、かつ日本の各地域の気候を把握していれば解ける。問3はメッシュマップの読み取りだが、老年人口の増加率と老年人口率の判別は誤りやすい。問4は写真中の防災施設と分布を見て、その目的や役割を判断する問題。「すべて選べ」という問い方が初めて出た。正解は1つだけであったため、誤答が多かったと思われる。問5は地形図と地形分類図から推測される災害の正誤文判定の8択問題。土砂災害や洪水などの災害がどのような場所で起こるか、確認しておきたい。問6は地域調査のまとめという形式で日本の自然災害と防災対策について出題された。常識的な知識で即答できる。